

山西医科大学学生との交流

芦田彩希

4月になり気温が30度近くになったと思ったら、週末には10°C以下にまで下がり雪まで降ることもありました。気温差が激しく、体調を崩す人たちもいました。暖かくなり始めてから外に出ると綿のようなものがちらほら飛んでいることに気づきました。その綿は日に日に増えていき、昼間には息もしたくなくなるほど空気中に飛んでいました。私は外出するときにはマスクをするようにしていましたが、周りには誰一人しておらず、留学生の友人には「どうしてマスクしているの？」と聞かれることもありました。調べてみたところ、この綿の正体は楊(やなぎ)の木の花の綿毛だとわかりました。また、地方によっては楊の木は、葉の擦れる音が「鬼が手をたたく音」のようだから庭木にはしないという言い伝えがあるそうです。

今年の3月まで私が通っている埼玉県立大学に留学していた山西医科大学の生徒が帰ってきたので会うことになりました。私たちが日本で会っていたときは、私が全く中国語を話せなかったので、会話という会話はできませんでした。しかし、私が太原に来てからもQQ(インスタントメッセージャーの一種)を通じて連絡を取り合っていました。今回は2人が山西大学まで来てくれるというのでバス停まで迎えに行きました。山西大学に来たのは今回が初めてで、校内の広さに驚いていました。主に中国語、わからない言葉はお互い日本語で説明しながらの会話でした。久しぶりの再会で緊張していましたが、会ったら日本での生活のことや1年ぶりの中国の話で盛り上がり、時間があっという間に過ぎてしまいました。今度は私に山西医科大学を案内してくれる約束をしました。この4月からは山西医科大学から本科生と院生がそれぞれ4人埼玉県立大学に留学しにくるそうなので帰ってからの大学生活が楽しみです。

・ 楊の木の綿毛



・ 4月初旬に降った雪

